

【報告】

ダンスを活用した食育推進事業の試み

—久留米産農産物 PR 動画

「くるめさん、ぐるめさん」振付を事例に—

新 井 真 実

Attempt of the Food Education Promotion that Utilized a Dance

—The Approach of the Choreography of Kurume-city Farm Products

PR Video“KURUME-SAN-GURUME-SAN”as an Example—

ARAI Mami

In recent years, the importance of the community art or social engaged art is increasingly pointed out. However, its systematized teaching methods have not been established yet.

Community dance belongs to the community art and social engaged art. Everyone involved in the community dance. It doesn't matter with or without dance experience, gender, social status and disabilities. Through its efforts, the students transformed perspective on dance and body expression. Further, they may have a new perspective on society itself.

Therefore, I tried the practice of active learning about community dance that focuses on social inclusion as the initial stage for the students to break away from the mere conventional education of dance. The following research suggests the possibility of local participation in the nursery training process feature the theme of food education in particular.

Key words : Community Dance, Food Education, Active Learning, Local Participation, Physical Expression Education in Nursery Training Process

キーワード : コミュニティ・ダンス、食育、アクティブ・ラーニング、地域参画、保育者養成課程における身体表現教育

1. はじめに

からだあそび研究会は、久留米信愛短期大学 幼児教育学科 卒業必修科目「チャイルドプロジェクト」の中に位置づけられるゼミであり、発足4年目を迎える研究会である。初年度、学科の専門性に基いたオリジナルのコミュニティ・ダンス考案とその普及を目指す<Project HOTM! X (ホトミクス)>が立ち上がった。この取り組みは、平成 28 年度<まちなか万博!>事業（主催：ハイマート久留米 後援：久留米市久留米商工会議所）として採択され、そして生まれたのが、信愛オリジナル・コミュニティダンス「ココ、カラダ。」であった。身体にまつわる慣用句を用いた独特な歌詞と、ゆったりとしていながら耳に残るサウンド、そして自由度の高い振付に独自性を支えられたこのナンバーは、中心市街地でのフラッシュモブや、ミュージック・ビデオの制作・配信など、学生の現代的な感覚を活用した形で発信をスタートした。

そのような実績から、活動2年目は自治体や各種団体からイベント等への招聘が増え、それらの機会を1つひとつ学びとして積み上げた。そして、同年新たに<平成 29 年度 久留米市キラリ輝く市民活動活性化補助金事業>に採択され、この補助金を活用して「ココ、カラダ。」のミュージック・ビデオ第2弾と、教則に活用できるダンス・ビデオを制作・公開した。

つづく活動3年目には、ひきつづき「ココ、カラダ。」を用いた地域参画活動を行うとともに、新たに市からの依頼を受け、久留米産農産物 PR 動画「くるめさん、ぐるめさん」へのダンス振付・普及活動に取り組むこととなった。この活動は<平成 30 年度 久留米市市民活動活性化・絆づくり補助金事業>に採択され、特に久留米市農政部農政課のバックアップの下、モデル園でのダンス体験会の企画・運営や、ダンスムービーの制作等を手掛けた。

そして令和元年度の4期生は、このダンス「くるめさん、ぐるめさん」を、これまでにない様々なアプローチで広める活動を行うこととなった。

2. 問題意識

コミュニティ・ダンスとは、ダンス経験の有無・年齢・性別・障害などに関わらず、「誰もがダンスを創り、踊ることができる」という考えのもと、アーティストが関わり、“ダンスの力”を地域社会の中で生かしていく活動である。いま、教育・福祉・医療・まちづくりなど社会のさまざまな場で、“ダンスの力”を活かそうとする動きが広がりつつある。また同時に、それらの現場で活動するアーティストや人材が必要とされている(JCDN)。このような社会のニーズと、「ダンスの力で、ひとを、まちを元気にしたい」という思いから、本研究会では<Project HOTM! X (ホトミクス)>を立ち上げ、平成 28 年度より展開している。

3. 事業概要と目的

本事業は、研究会の専門性を生かし、産後ママと赤ちゃん、子ども、お年寄りまで無理なく楽しめるダンスを考案し、これをツールとしたイベント出張や出前講座等を開催する。これにより、ダンス経験の有無・年齢・性別・障害などに関わらず、多様な市民が出会い、つながり、よりよいコミュニティの実現を目指すものである。

平成 30 年度には、<平成 30 年度 久留米市市民活性化・絆づくり補助金事業>（所管部署：久留米市農政部農政課）に採択され、食育に活用できるダンス「くるめさん、ぐるめさん」の振付と教則ビデオの制作、普及事業をスタートした。今年度はその流れを汲み、より多様なアプローチで市内外における普及事業を行った。

4. 久留米産農産物 PR 動画「くるめさん、ぐるめさん」とは

■制作所管：

久留米市農産物販売強化推進協議会
(久留米市・JAくるめ・JAみい・JA
にじ・JA福岡大城・JAみづま)

■振付：

久留米信愛短期大学 幼児教育学科
からだあそび研究会 (3期生 7名)

■振付監修：新井 真実

■制作背景および意図：

久留米市農産物販売強化推進協議会では、久留米産農産物に対する認知度やイメージを向上させるため、また、農業都市久留米のアピールのため、プロモーション動画を制作した。軽快なオリジナルソングにのせて、米麦大豆、野菜、果樹、植木・苗木、花き、畜産などの多種多様な農産物の映像と、作業風景、若手農業者の活動、子どもたちが野菜を食べる様子など、久留米市の農業の魅力を満載した内容とした。この動画は平成30年7月7日(土)に道の駅くるめで記者発表される予定が大雨に伴い延期され、平成30年7月25日発表された。

ダンスの振付は、この曲が子どもたちをはじめとするより多くの市民に一層親しまれ、浸透することを目的とし、久留米市農政部農政課より筆者に依頼された。その後、からだあそび研究会の学生たちとともに振付考案したダンスは、平成30年11月「ふるさと久留米農業まつり」で初公開され、その後平成31年4月にはダンスムービーが学院HPおよびYouTubeで公開され、本格的な普及活動がスタートすることとなった。

(1) 「くるめさん、ぐるめさん」の歌詞

「くるめさん、ぐるめさん」は約3分30秒の楽曲で、歌詞には久留米産農産物や、それを育む豊かな自然に関する描写が多く使われている。

■「くるめさん、ぐるめさん」歌詞

くるめさん ぐるめさん
くるっばさんさん くるめさん
くるめさん ぐるめさん
らんらんらんらんらん

おいしい あまい いっぱいとれるよ
(くるめさん ぐるめさん)
きりりくるめの かがやくひとまち
(くるめさん ぐるめさん)
ちくごへいや みのうれんざん
ちくごがわ
いいつち いいみず いいおこめ
ふくおかじまんの こめどころ
久留米の米のじは お米のじ

※くるめさん ぐるめさん
くるっばさんさん くるめさん
くるめさん ぐるめさん
おいしいくるめさん
ごちそうさん

ふる一ついっぱい やさいもりもり
(くるめさん ぐるめさん)
はるなつあきふゆ いつでもしんせん
(くるめさん ぐるめさん)
みどりに おれんじ あか きいろ
びたみんからーに いろどられ
えのきに しめじに きのこさん
げんきになれるよ くるめさん
くるめのものなら くるめでね

くるめさん ぐるめさん
くるっばさんさん くるめさん
うえきとなえぎは にっぼんいち
くるめさん ぐるめさん
ぜんこくに あいのはな
とどけます

じどりに わぎゅう
こむぎに はとむぎ

(くるめさん ぐるめさん)
みんながしってる くるめのぐるめさん
(くるめさん ぐるめさん)
も～も～たくさん も～たまらん
おちちを しぼって うししのし
おいしいぎゅうにゅう のんだなら
みらいへつづく くるめさん
くるめのうぎょう がばすごか

※くりかえし×2

らんらんらんらんらん
らんらんらんらんらん

振付に取り掛かるに当たり、「くるめさん、ぐるめさん」の歌詞を概観したところ、主に次のような特徴が見いだされた。

- ①米麦大豆、野菜、果樹、畜産など、具体的な農産物の名称が盛り込まれている事。
- ②農産物と同時に、それを育む久留米の豊かな自然についての描写がなされている事。
- ③繰り返される歌詞から、「くるくる」というオノマトペが抽出できる事。

動画制作の目的である、久留米産農産物に対する認知度・イメージ向上や農業都市久留米のアピールを達成する上で、筆者は、歌詞がもつ上記の特徴を生かし、振付として具現化する方針を固めた。

(2) 振付のコンセプト

(振付:久留米信愛短期大学 からだあそび研究会 振付監修:新井真実)

本作の振付は、広く市民に親しまれるものであること、中でも小さな子どもたちに興味を持って体を動かしてもらえようような動きを盛り込む必要があった。そのため、振付を伝える際、また覚えていく際に、歌詞としっかりリンクさせ具体的なイメージを想起できるよう配慮した。例えば「ちくごへいや みのうれんざん ちくごがわ」という部分では、筑後平野の大地を力強く踏みしめる土俗的な動き、耳納連山の山々

のフォルムを全身でつくる鋭い動き、筑後川の豊かな水の流れをなめらかに表現する上肢下肢の動きというように、単に言葉を体現するジェスチャーに留まらず、イメージに付随して引き起こされる身体感覚の多様性にも留意した。そうすることにより、くりかえし踊っても新鮮な楽しさを保てることを狙った。

次に、曲は約3分30秒で3番まであり、速いテンポで繰り返しも多いため、動きを単純に音に当てていくだけでは、単調になりがちであると考えられた。したがって、振付を行う際、ある程度のフレーズのまとまりを単位に、動きのスピードや質に変化をつけることを意識した。例えば、「じどりに わぎゅう こむぎに はとむぎ」のところでは、それぞれの農産物を動きで表現するが、前半の「じどりに わぎゅう」部分では鶏と牛になぞらえたクリアーなポーズを連続するのに対し、後半の「こむぎに はとむぎ」部分では、麦の穂が風に揺れる様子をイメージした、ゆったりとやわらかな動きを取り入れ、対比を意識した。

またこのダンスは、保育施設等での日常的な活動で楽しめる他、イベント等でのパフォーマンスが想定されたため、フォーメーションや隊形移動にもある程度変化を持たせることで、視覚的な面白さを狙った。

(3) ダンスムービー¹⁾のコンセプト

(撮影編集: RANGE picture 仲 朝芳/デザイン: DICTOM DESIGN 竹藤 智弥)

ダンス「くるめさん、ぐるめさん」の普及を目指すに当たり、従前のPVだけでなく、振付の教則ビデオとなり得る動画として、ダンスムービーを新たに制作することとした。撮影編集は、「ココ、カラダ。」でもコラボレーションをしている、映像作家の仲芳朝氏(RANGE Picture)に依頼することとした。前述の通りダンスムービーは振付の教則ビデオという側面が強いため、基本的に複雑なカメラワークは用いず、ダンスの動きが認識しやすいシンプルな構成を目指した。その上で、歌詞に歌われている農産物や自然のイメージとゆるやかにリンクする背景とす

るため、久留米市農政部からの紹介や研究会所属の学生の協力により、市内の農地や牧場等を中心にロケを行った。

また編集に当たっては、同じく「ココ、カラダ。」からの付き合いであるデザイナーの竹藤智弥氏 (DICTOM DESIGN) にロゴ、クレジット等のデザインを依頼した。作品観にマッチするほどのぼのとしたテイストを保ちながら、全編にひらがなの歌詞テロップをつけることで、小さな子どもたちも歌詞とリンクした振付を楽しめるよう配慮した。

5. 主な活動プロセス

からだあそび研究会の平成 30 年度、平成 31 (令和元) 年度の 2 年間の主な活動を以下の通りまとめる。

■平成 30 年度の主な活動

活動日 (時期)	活動内容	備考
平成 30 年 4 月 29 日	<第 3 回 くるめ楽 衆国まつり> (主催: オール久留米で盛り上げ隊) ステージ出演 (2 プログラム) 及び商工会議所との共同物販企画	ステージ上演内容: ・「ココ、カラダ。」パフォーマンス ・「ココ、カラダ。」ワークショップ 物販企画内容: ・久留米のソウルフードホットドックの販売 ・ブースの設営・装飾等の準備および片付け 会場: 久留米シティプラザ六角堂広場 西鉄久留米東口広場
6 月 27 日	<第 10 回 久留米まちゼミ まちゼミアフター5> (主催: 久留米商工会議所街元氣プロジェクト) 「美姿(びし)っと! ダンス and エクササイズ☆vol. 1」	新井講師のアシスタント 講座内容: ・リンバストレッチ ・体幹トレーニング ・正しい姿勢のアライメント ・ダンスエクササイズ等 会場: Ohana (久留米一番街)
7 月 2 日	【新聞掲載】 西日本新聞朝刊に「ココ、カラダ。」に関する記事が掲載。	
7 月 4 日	<第 10 回 久留米まちゼミ まちゼミアフター5>	新井講師のアシスタント 講座内容:

	(主催: 久留米商工会議所街元氣プロジェクト) 「美姿(びし)っと! ダンス and エクササイズ☆vol. 2」	・リンバストレッチ ・体幹トレーニング ・正しい姿勢のアライメント ・ダンスエクササイズ等 会場: Ohana (久留米一番街)
7 月中旬~	久留米市農政部農政課より 新井講師へ「くるめさん、ぐるめさん」振付依頼 振付考案スタート	
8 月 20 日	<第 5 回 久留米まちゼミ Kids> (主催: 久留米商工会議所街元氣プロジェクト)「ダンス and からだあそびワークショップ」	講座内容: ・からだほぐし ・からだあそび ・「ココ、カラダ。」 会場: ほとめきサロン (六ツ門)
10 月初旬	<平成 30 年度久留米市市民活動活性化・絆づくり補助金事業>採択決定	
10 月中旬	「くるめさん、ぐるめさん」振付完成	
10 月 31 日	久留米市農政部農政課職員の皆さんへの「くるめさん、ぐるめさん」ダンス指導	内容: 「くるめさん、ぐるめさん」振付披露とくるめ農業まつり>に向けた合同練習
11 月 6 日	【新聞掲載】 西日本新聞朝刊にダンス「くるめさん、ぐるめさん」に関する記事掲載	
11 月 10 日	<第 44 回 ふるさとくるめ農業まつり> 「くるめさん、ぐるめさん」スペシャルダンスステージ	上演内容: ・研究会の活動紹介 ・「くるめさん、ぐるめさん」レクチャー及びダンスパフォーマンス
11 月 11 日	<第 51 回 信愛祭> (久留米信愛短期大学学園祭) ステージにてダンス「くるめさん、ぐるめさん」お披露目	上演内容: ・研究会の活動紹介 ・「くるめさん、ぐるめさん」レクチャー及びダンスパフォーマンス
11 月 11 日	【新聞掲載】 毎日新聞朝刊に「第 44 回ふるさとくるめ農業まつり」における「くるめさん、ぐるめさん」初お披露目についての記事掲載	
12 月 22 日	<冬めくあつたかくクリスマス> (主催: 久留米ほとめき通り商店街・久留米市) ステージ出演	上演内容: ・研究会の活動紹介 ・「くるめさん、ぐるめさん」レクチャー及び(クリスマスバージョン)ダンスパフォーマンス
平成 31 年 1 月 19 日	<第 1 回 信愛ひらくフォーラム コドモもオトナも みんなつながるコンサート>	活動内容: ・会場設営 ・音の和 music さんとのリハーサル

	ト> (主催:久留米信愛短期大学教育改革推進事業実行委員会 共催:久留米信愛短期大学地域参画推進委員会 講演:久留米市・久留米市教育委員会) 第2部 音の和musicつながるコンサート内での共演	・コンサートでの「ココ、カラダ。」共演
1月21日	【新聞掲載】 西日本新聞朝刊<住人十色>のコーナーで、新井講師(からだあそび研究会指導)に関する記事掲載	
2月2日	「くるめさん、ぐるめさん」ダンスムービー撮影(1日目)	ロケ地: 山川町の農地及び牧場 筑後川河川敷 他 撮影:仲朝芳氏(RANGE picture)
2月9日	<ほっこりあったか食べもんまつり> (主催:JA久留米女性部) ステージ出演	上演内容: ・研究会の活動紹介 ・「くるめさん、ぐるめさん」レクチャー及びダンスパフォーマンス 会場:久留米シティプラザ六角堂広場
2月12日	モデル園(久留米信愛幼稚園)における年長児対象「くるめさん、ぐるめさん」ダンス体験会	講座内容: ・「くるめさん、ぐるめさん」紹介 ・「くるめさん、ぐるめさん」ダンスワークショップ
2月12日	「くるめさん、ぐるめさん」ダンスムービー撮影(2日目)	ロケ地: 田主丸町の農園 他 撮影:仲朝芳氏(RANGE picture)
2月17日	【新聞掲載】 西日本新聞朝刊に、久留米信愛幼稚園における「くるめさん、ぐるめさん」ダンス体験に関する記事掲載	

■令和元年度の主な活動

活動日(時期)	活動内容	備考
平成31(令和元)年4月24日	「くるめさん、ぐるめさん」ダンスムービー公開	・久留米信愛学院HP ・YouTube
4月29日	<第4回 くるめ楽楽国まつり> (主催:オール久留米で盛り上げ隊) ステージ出演(2プログラム)	ステージ上演内容: ・「くるめさん、ぐるめさん」ダンスライブ ・「くるめさん、ぐるめさん」ダンス体験 会場:明治通りトラックスステージ 西鉄久留米東口広場

		特設ステージ
6月19日	<第11回 久留米まちゼミ まちゼミアFTER5> (主催:久留米商工会議所街元氣プロジェクト) 「美姿(びし)っと!ダンスandエクササイズ☆」開講	講座内容: ・リンパストレッチ ・体幹トレーニング ・正しい姿勢のアーライメント ・ダンスエクササイズ等 会場:Ohana(久留米一番街)
9月1日	<久留米フェスティバル in 天神2019> (主催:久留米市・久留米シティプロモーション実行委員会) ステージ出演	ステージ上演内容: ・「くるめさん、ぐるめさん」スペシャルダンス 会場:福岡市役所ふれあい広場
10月27日	<第34回 久留米市コスモスフェスティバル in コスモスパーク北野> ステージ出演	ステージ上演内容: ・「パブリカ」 ・「くるめさん、ぐるめさん」スペシャルダンス 会場:コスモスパーク北野
11月3日	<大谷祭> (主催:九州大谷短期大学) ステージ出演	ステージ上演内容: ・「パブリカ」 ・「くるめさん、ぐるめさん」スペシャルダンス 会場:九州大谷短期大学野外ステージ
11月10日	<第45回 久留米市制施行130周年記念 ふるさとくるめ農業まつり> (主催:ふるさとくるめ農業まつり実行委員会) 久留米市制施行130周年記念事業共同企画・運営・出演	久留米市制施行130周年記念事業内容: 「くるめさん、ぐるめさん」ダンスあそび (50名の小学生以下の子どもを対象とした体験型プログラム) 会場:久留米百年公園
11月16日 17日	<第52回 信愛祭> (主催:久留米信愛短期大学) ステージ出演	上演内容: ・研究会の活動紹介 ・「くるめさん、ぐるめさん」レクチャー及びダンスパフォーマンス等
12月1日	<第13回 久留米まちゼミ まちゼミBUNBUN> (主催:久留米商工会議所 街元氣プロジェクト) 「ダンスandからだあそびワークショップ」開講	講座内容: ・からだほぐし ・からだあそび ・「くるめさん、ぐるめさん」ダンス体験等 会場:ほとめきサロン(六ツ門)
12月15日	<北野学園 ふれあいクリスマス会> (主催:障害者支援施設 北野学	ステージ上演内容: ・「ジングルベル」 ・「パブリカ」 ・「くるめさん、ぐるめさん」スペシャル

	園) ステージゲスト	ダンス 会場：北野学園特設 ステージ
12月21日	<冬めくあった かクリスマスバ ル> <クリスマス★ マーケット 2019 > (主催：久留米ほ とめき通り商店 街・久留米市) ステージ出演	上演内容： ・「ジングルベル」 ・「パプリカ」 ・「くるめさん、ぐる めさん」レクチャー 及びダンスパフォー マンス 会場：久留米シテイ プラザ六角堂広場

振付を受託した平成 30 年度からダンスムービーの公開を経て、メディアへの露出等もあり、平成 31 (令和元) 年度には新たなアプローチでのイベント招聘が増えたことが伺える。

6. 学生の感想と考察から

平成 30 年度、平成 31 (令和元) 年度のチャイルドプロジェクト活動報告会終了後、個人ワークとして学生各々が以下の 3 つの観点から、今年度の取り組みについての感想・考察をまとめた。

- ① 「くるめさん、ぐるめさん」のダンスおよびレクチャーを通じて感じ、考えたこと。
- ② 参加した地域での活動を振り返って (イベント毎の対象者や関係性の変化に留意して)。
- ③ 1 年間の活動全体を振り返って。

学生たちの感想・考察を概観すると、まず「くるめさん、ぐるめさん」の振付考案について、その難しさが挙げられた。「最初は歌詞の通りの動きをするだけでも難しく、一つひとつの動きを組み合わせる流れを作ることや、テンポにあった動きまで考えるのはとても難しく感じた」との感想が挙げられた。しかし徐々に「一人で考えるのではなく、みんなで考えることで、制作の段階も楽しい」と感じられるようになったと述べ、最後には「自分たちで考えたダンスを踊ってみると、ここはこういう表現をして伝えたいという思いが明確にあり、ダンスは気持ちを表現するものだなとあらためて感じるこ

できた」との感想が聞かれた。

次に、「くるめさん、ぐるめさん」のレクチャーやパフォーマンスを通し、周囲と共有する過程で感じたことについての記述を概観する。まず、自身が「踊ってみたい」と思った原経験から、見る人に『踊ってみたい』ともらうためには、どのような説明をしたら伝わるだろうか、どのように踊ったら楽しそうに見えるだろうかと悩んだ」との記述があり、試行錯誤の様子が伺えた。そのような苦悩を経て「私自身が楽しく踊らないと相手にも伝わらないと思い、伝える際も笑顔で、動きも大きくし、楽しさを全面に出しながらレクチャーを行った」等、気持ちの変化が読み取れた。更に「お客さんにダンスの説明 (レクチャー) をする時に声のトーンや間の開け方など考えながら説明した」や「一つひとつのダンスの振り付けには意味がある為、振り付けと意味を融合して説明した」等、より具体的な方法や留意点への気づきに触れる記述もみられた。

そして、対象者へのまなざしや関わりについても、多くのポジティブな記述がみられた。「最初は私達が踊っている様子を見ているだけの人が多かった。でも、『みんなで踊ってみましょう』と誘ってみると母親と一緒に踊っている子どもがいた。子どもだけでなく、大人の人もお年寄りの人まで腕だけを動かしたりリズムをとったりしていた。その会場にいるみんなの心が一つになったような気がした。」といった記述である。更に「ダンスを通して人と人が触れ合うことで、言葉でのコミュニケーションとはまた違う触れ合いを感じる事が出来た。全然知らない方でもダンスや笑顔を通してコミュニケーションを取り繋がる事が出来るダンスの素晴らしさを体験出来た」といった記述からは、ダンスによってもたらされる一体感や、世代を超えたつながりを体感したことが伺える。これは、インタラクティブなダンスを用いた地域参画活動によってこそ、もたらされた体感と言えるだろう。

こうした活動を通じて、「保育者になるうえで大切なことを学ぶことができたと思う。保育者は人を笑顔にできる仕事である。人を笑顔にす

ることの喜びを知ることができ良かったと思う。これからも体を動かすことの楽しさを伝えながら人を笑顔にしていきたいと思う。」と述べる学生の言葉が示す通り、意図をもって創り、踊るダンスは、地域をつなぎ、社会を変える力を持つ事を学生たちは体感できたことが推察される。

7. まとめと考察

ソーシャル・エンゲージド・アートの価値はそのプロセスにある。地域社会におけるコミュニティ・ダンスもまた作品至上主義ではなく、一連の取り組みによっていかに参加者自身や社会を変えていけるかが問われる。食育という明確なテーマのもとで学生とつくるコミュニティ・ダンスの試みが、保育者養成にとって有効である可能性を示唆して、本稿の結びとする。

謝 辞

平成 30 年度から平成 31 (令和元) 年度に渡り、久留米市様・久留米市農政部農政課様をはじめ、行政や地場産業等の多くの皆様にお力添えをいただき、ダンス「くるめさん、ぐるめさん」の普及を中心とした 2 年間の活動を展開することができました。未熟な私たちの取り組みを、様々な角度から見守り支えてくださっている皆様へ、心より御礼申し上げます。

註

- 1) 「くるめさん、ぐるめさん」ダンスムービー

<https://www.youtube.com/watch?v=J00WynNemcQ>

(2020 年 3 月 31 日受稿)